

美しい山形・最上川フォーラム 令和7年度（第24回）通常総会議事録

1 日 時 令和7年6月30日（月）13時30分から15時30分まで

2 場 所 山形県村山総合支庁本庁舎 2階 講堂

3 出席者 出席 計48名（司会除く、別紙名簿のとおり）

4 議事の経過

13時30分、司会を務める一般財団法人山形県理化学分析センター松本義文さんが開会を宣言した。

○ 柴田洋雄 会長あいさつ（要旨）

- ・出席者への謝辞
- ・第24回総会ということで、設立後24年目を迎えた。
- ・24年の間で印象深いのが、東日本大震災の時。信用金庫さんが中心となり津波が届いたところに桜を植えて震災を乗り越えよう、東北全体を元気にしようと活動したこと。
- ・昨年度、環境省から大気・水・土壌環境保全活動功労者表彰を受賞したが、その要因は会員が多いことと、長く続いていることだと考えている。会員の皆様に感謝します。
- ・本日は事業内容や予算などの議案を皆様に協議していただく。皆様方からは遠慮なくご意見を賜りたい。

○ 知事あいさつ

（山形県防災くらし安心部 岩瀬一次長が代読披露）

美しい山形・最上川フォーラム令和7年度通常総会の開催にあたり、一言御挨拶申し上げます。

フォーラムが設立されて、今年で24年目を迎えました。その間、「美しい山形・最上川100年プラン」のもと、母なる川「最上川」を美しい山形づくりのシンボルに掲げ、水環境の保全や川が育む文化の継承、さらには最上川を活用した地域活性化の取組みを県全域で活発に進めてこられました。

会員の皆様におかれましては、豊かな自然や文化を後世に引き継ぐために日々御尽力いただいております。深く敬意を表しますとともに、心から感謝申し上げます。

また本年1月には、フォーラムの長年にわたる御尽力・御功績が認められ、環境省から栄えある「大気・水・土壌環境保全活動功労者表彰」を受賞されましたことに対し、心よりお祝い申し上げます。

さて、本年5月1日現在の本県人口は99万9,378人となり、大正14年以降、約100年ぶりに100万人を下回りました。

また、さらなる人口減少の加速や自然災害の頻発・激甚化、物価高騰の長期化など、私たちを取り巻く社会経済環境は大きく変化しております。

このような時代の潮流の中、環境保全、文化振興、地域経済の活性化など、本県の魅力や価値を活かしながら多角的に展開されるフォーラムの取組みは、県の基本目標である「人と自然がいきいきと調和し、真の豊かさと幸せを実感できる山形」の実現に資するものであります。

今年は、本県でさくらんぼや西洋なしなどの果樹栽培が始まってから 150 年の記念すべき節目、「やまがたフルーツ 150 周年」であります。この大切な節目を好機と捉え、県内でのイベント開催や全国に向けた情報発信などにより、県内外からの誘客促進を図るとともに、山形の美しさや魅力をしっかりとアピールしてまいりますので、引き続き皆様の御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

結びに、次代を担う子どもたちや若者たちに、この美しい県土を引き継いでいくため、これからも力強い活動が展開されることを期待いたしますとともに、皆様の益々の御活躍を心から祈念申し上げ、挨拶いたします。

○ 柴田会長が議長席に着き、協議を開始した。

議長が議事録署名人の指名について事務局に提案を求めた。

・事務局長が、公益社団法人山形県観光物産協会観光事業部長 鈴木 利弘さんと、最上川 229 ネットワーク共同代表 本木 勝利さんに議事録署名人をお願いすることを提案し、異議なく承認された。

○ 第 1 号議案 令和 6 年度事業報告及び収支決算（案）について

事務局長が以下の内容を説明した。

・事業実施結果の総括として、学校や企業、地域団体など S D G s の取り組みや環境問題への関心が高まっており、イベント出展やワークショップ、企業とのコラボレーション等を積極的に進めてきた。

また、昨年は 7 月の豪雨被害により、屋外での活動が主となる事業については案内や実施を見合わせたものもあった。

・活動の 1 つ目の柱、将来を担う世代の育成については、フォーラム設立当初から実施している身近な川や水辺の健康診断、スポ G O M I 大会が活動の中核をなしている。これに海岸漂着物やマイクロプラスチック問題の啓発を組み合わせ実施している。

身近な川や水辺の健康診断は、国土交通省の山形・酒田・新庄の各事務所からの御支援、水質保全関係団体及び企業からの御協力などにより実施しており、感謝申し上げる。前年度に比べ、小学生の参加者が増えたため、実施団体数・調査箇所数は横ばいだったが、参加人数は大幅に増えた。

スポ G O M I 大会は、海岸漂着物対策の普及啓発の一環として実施しているが、地域や学校、企業からの開催要望が増加しており、約 2,000 名もの参加をいただいた。海岸漂着物問題の普及啓発については、学校等での出前講座を実施したほか、様々な施設やイベントでの展示、海と日本プロジェクトへの参加など、あらゆる機会をとらえて取り組んできた。それぞれの実績については別紙資料を参照願う。

・2 つ目の柱、地域の環境保全と安心づくりについては、美しいやまがたクリーンアップキャンペーンが中核をなしている。山形河川国道事務所からの委託事業として、最上川上流におけるクリーンアップ活動を 7 箇所で行った。

散乱ごみの発生抑制対策の推進では、学校、企業イベント、商業施設等での海岸漂着物問題の普及啓発を実施した。また、県の海岸漂着物対策推進協議会に最上川フォーラムとして参画するとともに、川ごみ団体、全国川ごみネットワークとの連携を図っている。

・3 つ目の柱、環境や文化を地域活性化に活かすについては、最上川夢の桜街道づくりがメインの活動で、要望に基づいて樹木匠を派遣し桜の育成に関する調査・指導を行った。桜守養成講座は緑の環境づくり推進事業助成金を活用して鶴岡市、金山町で実施した。

桜や水辺の写真を活用した情報発信として、啓発の内容も含めた展示会を 3 月中旬から 5 月にかけて市町村の御協力をいただいて実施した。

・地域部会の活動については、置賜・村山地域部会の連携により、最上川にまつわる紙芝居を製作した。その他身近な川や水辺の健康診断、スポGOMI大会、桜守育成研修会、啓発イベントにおける協力など、活動全般を支えていただいた。

・会員拡大の取組みについては、会員金融機関の協力を得て会員募集キャンペーンを実施、会員の勧誘に取り組み38会員の新規加入をいただいた。法人会員の募集については具体的な取組みができなかったが、最重要事項と認識しており、7年度に取り組みたい。

・運営基盤の強化では、法人会員の会費を一口3千円から5千円に増額させていただいたため、法人会員の会費は約20万円の増収となった。

また、当フォーラム印刷物「河川水質マップ」への広告掲載依頼を実施し、14社様の御賛同を得て広告入りの印刷物を1,700部作成した。この印刷物は、広く県内関係機関・団体に配布し掲示していただくとともに、当ホームページの「令和6年度報告書『笑顔を写す山形の川』デジタルブック」にも掲載しており、広くWeb上でもPRしている。

・環境省より、長期にわたる環境保全の活動と意識向上に寄与しているとして「令和6年度大気・水・土壤環境保全活動功労者表彰」を受賞した。

・当フォーラムの活動を支援していただいた委託事業、助成事業、連携事業は記載のとおり。関係各位に感謝申し上げます。

・収支決算（案）については、第1号議案－2に記載のとおり。

特徴的事項について説明すると、収入の部、会費収入については、法人会員の会費が増加したことにより、当初と比べて17万円ほど増加した。県補助金は、事務局長人件費補助で実績減。最上川上流清掃活動については、山形河川国道事務所からの委託によるもの。米沢市から当初になかったが、委託事業を受託した。諸収入の中の広告収入は、前述の印刷物への広告掲載料として、14社様から御賛同を得て70万円。協賛金が5万円。収入の決算額合計は、16,817,014円となった。

支出の部では、費目全般にわたり経費の節減に努めたところ。需用費については入会申込書の印刷を令和7年度に先送りしたため減額となった。事業費については、委託をいただいた事業について業務を遂行した。積立金として54万円を計上することができた。支出の決算額合計は、16,762,159円となった。

収入の部から支出の部を差し引いた額、54,855円が令和7年度への繰越金となる。

議長が各部会長に対し補足説明等を求めたところ、以下の発言があった。

（菅原清流・環境対策部会長）フォーラムの事業はお互いリンクしているので、どれに力を入れ、どこを弱めるということができない。全部実施できればよいが、経済的に厳しくなると難しい。今後どう進めればよいのか、皆さんから議論していただきたい。

（本間最上川文化・地域経済活性化部会長）小国町でのスポGOMI大会に参加した時、町の中心部でも相当なゴミが出て、川に流れて海に流れたら大変だと痛感した。子供たちが一生懸命ゴミを拾っている姿を見て、フォーラムの活動は地道ですが、皆様、御協力をよろしくお願いします。

大場健一監事が、監査結果について以下のとおり報告した。

・5月に会計監査を実施した。帳簿及び証拠書類その他を精査した結果相違なく、事業の内容について監査した結果適正であったことを認める。

議長が意見を求めたが発言がなかったため、第1号議案の令和6年度事業報告及び収支決算（案）について出席者に諮ったところ、全員異議なく原案のとおり承認された。

○ 第2号議案 令和7年度事業計画及び収支予算(案)について

事務局長が以下の内容を説明した。

・引き続き、イベント出展やワークショップ、教育機関への出張授業、企業とのコラボレーション等に取り組んでいく。また、助成金の確保や活用、他団体との連携にも努めていく。なお、今年も猛暑が予想されることから、熱中症対策など異常気象によるリスクにも対応し、実施時期の調整等を図っていく。

事務局が緑町会館から一般財団法人山形県理化学分析センター飯塚支所内に移転した。心機一転なお一層、財務基盤の強化に努めていく。

・活動の第一の柱である将来を担う世代の育成については、身近な川や水辺の健康診断、スポGOMI大会、海岸漂着物やマイクロプラスチック問題等の啓発を中心に引き続き取り組んでいく。また、今年は新たに防災イベントへの協力も行っていく。スポGOMI大会の実施結果と今後の予定については別紙資料を参照願う。

・第二の柱である地域の環境保全と安心づくりについては、美しいやまがたクリーンアップキャンペーンを引き続き推進していくとともに、散乱ごみの発生抑制対策として普及啓発活動に取り組み、海洋へのゴミの流出削減を呼びかける。

・第三の柱である環境や文化を地域活性化に活かすについては、桜を中心とした緑化推進のための維持管理と多世代に向けたワークショップ等を行い、地域活性化、人材育成に努める。桜の写真と灯りの展示会は、今年度も市町村の協力を得て既に実施している。また、昨年度製作した村山の紙芝居の動画制作を行う。

・各地域部会の活動としては、これまでと同様、身近な川や水辺の健康診断、スポGOMI大会、桜守育成などの活動に協力いただくほか、地域の実情に応じた独自の創意工夫による活動に対し支援していきたい。

・会員拡大の取組みについては、引き続き会員金融機関の御協力のもと会員募集キャンペーンを実施する。また、新たに当フォーラムに関心のある若者が参画できる仕組みや当フォーラムの会員であることのステータスを高める仕組みを整えていく。

法人会員の募集については、最重要事項として会費の増収に向けて取り組んでいく。そのためにも、企業への効果的な勧誘PR方法等を検討していく。

・財務基盤の強化については、前述のとおり会員拡大に取り組むほか、引き続き「河川水質マップ」への広告掲載依頼を実施し、企業様の御賛同を得ながら、広告収入を確保していく。

・今年度予定している委託事業や助成事業、連携事業は記載のとおり。

・令和7年度収支予算(案)については、第2号議案－2に記載のとおり。

収入の部、会費収入については、前年度実績プラス法人会員の増を見込んでいる。積立金については、54万円計上。諸収入では、助成金と広告収入は前年度実績並みに見込んだほか、事務局が賃借させていただいている山形県理化学分析センター様から60万円の寄付をいただいた。収入の予算額合計は、16,171,000円。

支出の部、運営費及び事業費とも、収入見合いの前年度当初予算並みで積算した。需用費は入会申込書分が増えている。また、使用料は事務局賃借料込みで125万円を計上している。支出の予算額合計は、収入の部と同額の16,171,000円。

積立金の部は、期首残高はフォーラム基盤強化積立金11,173円、積立金が540,000円となる。

議長が各部会長に対し補足説明等を求めたところ、以下の発言があった。

(菅原清流・環境対策部会長) 計画を立てた内容をきちんと遂行しなければならない。中

間決算までの間で、具体的な事業と役員が実行する組織の強化を一緒にやっていきたい。
(本間最上川文化・地域経済活性化部会長) 会員の増加、特に企業の会員を増やすことは、役員の方から相当力を入れて御協力いただかないと、入会していただくのが難しい時代です。ので、皆様からの御協力よろしくお願いします。

議長から以下の補足説明があった。

収入の部の寄付金、山形県理化学分析センターからの 60 万円、支出の部の使用料の事務局賃借料が 120 万円となっているが、事務局が前の緑町会館よりかなり広くなったため環境は良くなったが家賃は高くなった。しかし、厳しい予算の中で増額はできないため交渉した結果、家賃は 120 万円払うけれど、60 万円の寄付をいただいてバランスをとることとなった。山形県理化学分析センターさん、ありがとうございました。

議長が、出席者に対し意見を求めたが発言がなかったため、第 2 号議案の令和 7 年度事業計画及び収支予算(案)について出席者に諮ったところ、全員異議なく原案のとおり承認された。

○ 第 3 号議案 役員改選(案)について

事務局長が、以下の内容を説明した。

① 退任する役員

柴田 洋雄 会長
本間 義衛 最上川文化・地域経済活性化部会 部会長
佐竹 良廣 村山地域部会長
齋藤 正昭 最上地域部会長
伊藤 憲昭 運営委員
結城 裕 運営委員(尾花沢市長)※
高梨 忠博 運営委員(高島町長)※
元木 洋介 監事(鮭川村長)※

※印は、2 年の任期満了

② 役職変更の役員

大泉 茂 最上川文化・地域経済活性化部会 部会長
(前 清流・環境対策部会 副部会長)

③ 新任の役員

會田 健 村山地域部会長
三上 重幸 最上地域部会長
土田 正剛 運営委員(東根市長)※
安達 春彦 運営委員(山辺町長)※
新田 隆治 監事(真室川町長)※

※印は、任期 2 年

・上記以外の方については、再任を提案する。運営委員は 3 名減って 25 名となる。

議長が、第 3 号議案の役員改選(案)について出席者に諮ったところ、全員異議なく原案のとおり承認された。

総会の議事を中断し、直ちに臨時運営委員会が開催され、会長の選任及び副会長の指名等が行われた。

総会の議事を再開し、事務局長が臨時運営委員会での協議結果を報告した。

- ・運営委員の互選により、会長に下平 裕之さんが選任された。
- ・副会長には、佐藤 五郎さんが会長から指名された。
- ・前会長の柴田 洋雄さんが会長から顧問に委嘱された。

下平裕之 新会長あいさつ（要旨）

・新会長に選任された山形大学の下平です。専門は経済学及び地域資源を利活用した地域活性化です。以前から柴田会長から、次をお願いしたいと言われていた。

・7～8年前、最上川の上流から河口までのフィールドワークを行い、最上川の素晴らしい自然と文化に大きな感銘を受けた経験があり、今回会長を受けさせていただいた。

・フォーラムの基本コンセプトは、最上川が育んできた自然と文化、地域の環境を次の世代に継承し発展させること。最上川という資源を中心に、人と人、地域と地域の新しい繋がりを生み出して、未来を担う次世代の育成に貢献することが使命だと考えている。

・地球規模の環境の変動や少子高齢化など課題が山積しているが、フォーラムがこれまで培ってきた知見やネットワークを活用し、実効性のある活動を展開していきたい。

・新しい課題に対応した各部会等の見直しや再編も必要になるかもしれない。

・フォーラムを持続的に運営していくためには、安定した財源、会費を安定的に確保していくことが重要ですので、皆様の御協力を改めてお願いします。

・最後に、柴田会長、長い間ありがとうございました。柴田会長には、今後とも顧問としてよろしくお願いします。

その他、報告事項として、事務局長が会員の状況等について、以下のとおり説明した。

・令和7年6月20日現在の会員数は2,625会員（昨年2,765会員）となった。昨年から140会員も減少しており、非常に厳しい状況が続いている。今後とも会員拡大に努めていきたい。

・参考まで、会費収入の推移も下段に記載したので御覧願いたい。

議長から、以下のような補足説明等があった。

・会員が減ってきている。何とかしていかなければならない。一時期5千人くらい会員がいたが、コロナの影響と高齢化の進展が会員減少の要因だと考えている。

・フォーラムの活動の中で一番感じたのは、山形の河川について、小さな河川から最上川まで継続して汚れを調べて地図にしていること。県内全部について調べている県は山形だけだと思う。今回表彰を受けた大きな理由だと思っている。

・また、継続して調査できているのは、企業や団体の方の継続した実施とともに、小学生や中学生も調べてくれているから。会員だけでなく、イベントに参加くださる総ての人の御協力のうえに成り立っている。

退任する役員のうち、本日出席の3名の方から次のような挨拶をいただいた。

（本間義衛 最上川文化・地域経済活性化部会長）

・フォーラムが結成した時から会社に関係しており、会員となっている。柴田先生とは50年来のつきあいで、同い年、現在84歳で退任させていただく。

・24年間、皆様からの御協力で何とかやってこれた。地域の民生委員や社会福祉協議会の役員をしているので、フォーラムとの繋がりを作って今後とも協力していきたい。

（伊藤憲昭 運営委員）

・フォーラムに関係して21年になる。部会長や事務局長をやらせていただいた。

・第一の危機は、突然事務局が県庁から出ていくことになり、山形大学に事務局が移転した時。人員が事務局長一人しかいなくて、当時の大学院生からきていただき手伝ってもらった。専任でもないのにもものすごく大変で、私も仕事そっちのけで取り組んでいた。

・第二の危機が今だと思う。企業も環境問題を深刻に考え、自ら取り組んでいるし、行政もやっている。そのため、フォーラムが企業戦略や市町村の政策を超える提案や、一緒になってやっていくことができるかどうか、今後の課題になってくると思う。

(柴田洋雄 会長)

・フォーラムの中でいろんな役職に就いていただいている方は、基本的にはやりたくない仕事でないかと思う。それを嫌だと言わせない工夫が私にはあった。嫌なことをやってもらうには楽しくなくてはならない。仕事が楽しくなるような工夫をやっていきたい。

・我々のような任意団体に、国土交通省の3つの河川国道事務所に御参加いただけるのは、普通はあり得ないこと、仙台の会議だけ。それは最上川を1つにした時、市町村にまたがるのは行政が苦手で、例えば最上と村山の行政を繋ぐ時に我々ができるというような、行政が楽できる工夫をすると、相手にとってもメリットがあるため御参加いただける。

・これまで私は人脈みたいな形でやってきたが、新会長の下平さんはスマートなので、皆さん新会長にアドバイスしながら、これまでとは違う形で活動をしていって欲しい。

・県内全部の市町村が会員となっているが、フォーラムに関わっていない市町村からも、会員になっていて良かったと言ってもらえるようにしていきたい。

・これから市町村、国、県、企業等と連携していくためのキーワードは「住民」。県民のために良いんだ、と自信をもって言えるようにする。

・お金よりもっと良いものは“やりがい”だと思う。自分がやっていることが、他の人にどれだけ役に立っているかを分かるように説明すれば、みんな協力してくれると思う。

・フォーラムは、県民のために環境問題を考える。主役は県民一人ひとり。それを我々が少しアシストしているという気持ちで、活動が100年続いていければよいと思う。

・皆さんも無理をしない範囲で、持続可能な形でフォーラムに関わってください。

引き続き、フォーラムをよろしくお願いします。

○ 議長が出席者への謝辞を述べ、議事を終了した。

以上をもって全ての議事を終了したので、15時30分に司会が閉会を宣した。

(出席者から拍手)